

## 「松ヶ丘の点景 No.33」 R8.2.4

本日、島根県西部県民センターの石見地域振興部商工振興課が主催する、「翔陽生のための地元企業セミナー」が5・6時間の2時間を使って、1・2年全生徒並びに保護者、教員を対象として実施されました。この事業は、①「地元石見の企業」を身近に感じ、地元企業について理解を深める。②企業の取り組みから地域の魅力や課題を学び、進路選択に生かす機会とする。③様々な職種に興味を持ち、進路選択の幅を広げる。という3つの目的を持った事業です。

つまりこのセミナーは、高校生の地元就職を促進するために、地元企業が高校に出向いて企業説明を行い、それを生徒が聴いて知る・興味を持つという、いわば「生徒と企業の集団お見合い」のようなものです。今年は益田市内を中心に企業展開されている本校4科に関連する、製造・電気・サービス・農林業・建設・保育・医療・福祉・小売り業他の計28企業様が参加され、生徒225名が興味のある各社のブース(教室)に移動(4セット(社))して説明を聴きました。

令和8年は昭和100年、戦後80年と言われます。かつて昭和30年代後半、日本は戦後復興をかけて高度経済成長期を迎え地方の中卒の若者が、「金の卵」として都会地の貴重な働き手として向かい、肉体的にも精神的にも厳しい日々を送り、現在の日本経済の土台を築きました。

そしてその半世紀後、「少子高齢化」の波が全国で見られ、特に地方での人口減少が顕著で社会問題になっています。一方で全国の出生率が低い地域の傾向はどうでしょうか。

本校に確かな目的を持って進学し、それぞれの専門教育を受けた「将来の」産業人となるであろう本校の生徒は、本当の意味で「地域の金の卵」です。その大切な卵を育てることが本校のミッションです。(J)



\* 各説明会場の様子

